The world needs science, science needs women.

2027 年度

第 22 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
募集要項

日 本 ロ レ ア ル 株 式 会 社
（ https://www.loreal.com/ja-jp/japan/ ）

後援（申請中）： 日本ユネスコ国内委員会

2027 年度 第 22 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集要項

1. **趣旨**： ロレアルグループとユネスコが世界規模で展開する女性科学者を支援する共同プロジェクトの理念を継承し、将来を担う若手女性研究者が**国内の教育・研究機関において**研究を継続できるよう、奨励しています。

2. **対象**： 生命科学、物質科学の分野において、応募締切日（2027 年 2 月 26 日）時点で、日本国内で博士後期課程に在籍あるいは、翌年に博士後期課程に進学予定で（現在の課程を修了する見込みがあり、翌年度に「博士後期課程」への進学が決定している）、40 歳未満の女性を対象とします。

3. **奨学金授与の件数**： 生命科学、物質科学の分野からそれぞれ原則年間 2 件（2 名）、計 4 件（4 名）を選考し、受賞者に賞状および奨学金 100 万円を贈呈します。

4. **受付期間**： 2026 年 11 月 26 日（木）から 2027 年 2 月 26 日（金）23 時 59 分まで

5. **応募方法**： 下記必要書類を「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局宛に e-mail にてお送りください。**1つのフォルダに下記必要書類をまとめて格納のうえ、**お送りいただく際はフォルダにパスワードをかけ、10MB を超える場合は、所属大学・機関で推奨されているファイル転送サービスをご使用ください。
   ＊個人の e-mail にてパスワード設定が不可の場合、指導教員または大学の e-mail 代用可

【フォルダ名の表記について】
研究分野（生命科学は LS、物質科学は MS と表記）、氏名と所属大学・機関は英語表記でお願いします。
記載見本： LS_Yamada Hanako_Japan University

【書類名の表記について】
該当書類の番号、研究分野（生命科学は LS、物質科学は MS と表記）、氏名と所属大学・機関は英語表記でお願いします。
書類 a の記載見本： a_LS_Yamada Hanako_Japan University



(1) 必要応募書類　※ファイル形式は全て PDF にてご提出ください。

a)応募申請書
募集要項、応募申請書、指導教員からの推薦状は、日本ロレアルホームページ
https://www.loreal.com/ja-jp/japan/articles/commitments/fwis-japanfellow-award-application/
2027 年度 第 22 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」 募集開始日（11 月 26 日以降）からダウンロードできます。

b)指導教員からの推薦状

c)これまでの研究内容の概要 （A4 版 2 頁以内）
＊および別添(A4 版 1 頁以内)に、研究タイトルとアブストラクトを日英で併記ください （和文 500 字/英文 200words）

d)今後一年間の研究題目とその概要および今後の展望 （A4 版 2 頁以内）

e)発表論文リスト （口頭発表含む） 著者名は可能なかぎり全員記載
＊応募者本人が First author ではない論文は、First author の役職名（発表当時）と、本人の寄与分（%）を明記ください。

f)論文別刷
f-1)既刊および刊行予定の論文(Acceptance Letter 添付) 3 編以内 f-2)学会発表論文（アブストラクト）
＊上記 f-1)、f-2)に該当する書類がない場合、修士論文で代用可
＊複数の論文がある場合は、まとめて 1 つの PDF でご用意ください。

(2) 書類提出先 / お問い合わせ先
「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局 loreal-fwis-japan@kreo.jp
事務局より書類受取のご連絡を 1 週間以内にいたします。（下記の年末年始休業期間は除く）
＊事務局休業期間：2026 年 12 月 26 日（土）～2027 年 1 月 4 日（月）

6. **選考**： 1 次審査（書類選考）、2 次審査（ヒアリング-日本ロレアル（株）新宿オフィスにて対面にて実施予定）、選考委員会による厳正なる審査を経て、2027 年 7 月を目途に採否をご連絡します。

7. **授賞式**： 採否のご連絡後、東京で授賞式を開催し、正式に受賞者の発表を実施します。（※9月～10 月開催を予定しています。受賞者は式典への出席は必須とさせていただきます。）

2027 年度 第 22 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
応募申請書

（日付） 年 月 日

<table>
<tr><td>研究分野
該当分野を〇で囲むこと</td><td colspan="2">生命科学</td><td>物質科学</td></tr>
<tr><td>研究テーマ</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>氏名（フリガナ）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>生年月日</td><td colspan="3">（西暦） 年 月 日 （ 歳）</td></tr>
<tr><td>自宅連絡先</td><td colspan="3">（住所） 〒
（電話）
（携帯）
（FAX）
（個人 e メールアドレス）</td></tr>
<tr><td>所属大学連絡先</td><td colspan="3">（住所） 〒
（電話）
（FAX）
（e メールアドレス）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">所属大学・学部・学科</td><td colspan="3">（大学名）
（学部名）
（学科名）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">博士後期課程について
状況をご記入ください</td><td colspan="2">在籍中の場合： 現在 年目</td></tr>
<tr><td colspan="2">進学予定の場合： 年 月 進学予定</td></tr>
<tr><td>指導教員連絡先</td><td colspan="3">（氏名）
（役職名）
（大学名）
（学部名）
（学科名）
（住所） 〒
（電話）
（FAX）
（e メールアドレス）</td></tr>
</table>

2027 年度　第 22 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
指導教員による推薦状

（日付）　　年　　月　　日

①指導教員連絡先	（氏名） （役職名） （大学名） （学部・学科名） （住所） 〒 （電話） （FAX） （e メールアドレス）
②応募者氏名（ﾌﾘｶﾞﾅ） （3 名まで）	
③推薦理由 （応募者の研究姿勢・研究の進捗状況、専門的知識・技量、着想力・創造力、将来性などについてご記入ください。 また、研究の独創性・特色も明記してください。）	

注1） 一人の指導教員につき、ご推薦いただく学生は**3名まで**とします。
注2） 外部研究機関にて研究を行っている場合は、直接指導を受けている当該機関の教員からの推薦も可能です。
その場合は、学生証コピーまたは、所属大学・大学院の在籍証明書をご用意ください。
注3） 本推薦状は、審査の重要な資料となるので、当該応募者についてできるだけ具体的かつ明確にご記入ください。
注4） 本推薦状は、本書以外に新たに用紙を加えることはできません。

応募者の方へのアンケートのご協力のお願い

今後の参考として、下記アンケートへのご回答にご協力いただけますようお願いします。

■「ロレアルーユネスコ女性科学者　日本奨励賞」を何でお知りになりましたか。
該当項目に〇印を記載ください。（複数回答　可）

〇印欄	項目	学会・雑誌名など
	日本ロレアルのホームページ	
	知人からのご紹介	
	大学のホームページ	
	大学の事務からのご紹介	
	大学の先生からのご紹介	
	学会のホームページ	学会名
	学会誌	雑誌名
	新聞・雑誌	新聞・雑誌名
	その他	

■その他のご意見・ご要望

ありがとうございました。

「ロレアルーユネスコ女性科学者　日本奨励賞」事務局

日本奨励賞　歴代受賞者

計 85 名

	年度・分野	氏　名	授賞時所属
1	2006年 物質科学 受賞者	高峰 愛子	東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻
2	2006年 生命科学 受賞者	佐々木 真理	総合研究大学院大学 生命科学研究科 生理科学専攻
3		野中 美応	京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻
4	2007年 物質科学 受賞者	神谷 真子	東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬学専攻 薬品代謝化学教室
5		作田 絵里	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 分析化学研究室
6		三浦 陽子	名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻（物理系） 物質開発物理研究室
7	2007年 生命科学 受賞者	黒田 有希子	東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻 脳神経発生・分化卒(授賞時) 理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム
8		戸張 靖子	千葉大学大学院 自然科学研究科 多様性科学専攻 相関物質先端科学講座 岡ノ谷研究室卒(授賞時) 日本医科大学大学院 医学研究科 生体制御形態科学部門
9	2008年 物質科学 受賞者	南谷 英美	大阪大学大学院 工学研究科 精密科学・応用物理学専攻
10		田中 奈津美	早稲田大学大学院 先進理工学研究科 化学・生命化学専攻 化学合成法研究室
11	2008年 生命科学 受賞者	覚道 奈津子	関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程 高次機能制御系 形成外科学 専攻
12		大西 なおみ	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 （於 遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野）
13	2009年 物質科学 受賞者	海老根 真琴	東北大学大学院 理学研究科
14		大串 裕子	九州大学大学院 工学府 物質プロセス工学専攻
15	2009年 生命科学 受賞者	岩井 玲奈	東京大学大学院 医学系研究科 神経機能解明ユニット
16		富田 文菜	東京工業大学 フロンティア研究センター
17	2010年 物質科学 受賞者	中村 優希	東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻
18		富永 依里子	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 設計工学専攻
19	2010年 生命科学 受賞者	依田 真由子	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻
20		野澤 佳世	東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻
21	2011年 物質科学 受賞者	植田 桐加	名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(化学系) 伊丹研究室
22		竹原 由佳	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 物理科学コース 奥村研究室
23	2011年 生命科学 受賞者	水沼 未雅	東京大学大学院 薬学系研究科 薬品作用学教室
24		森田 真規子	広島大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 細胞生物学研究室
25	2012年 物質科学 受賞者	客野 遥	首都大学東京大学院 理工学研究科 物理学専攻
26		工藤 まゆみ	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 化学・生物化学領域
27	2012年 生命科学 受賞者	高田 朱弥	東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻（消化器内科）
28		中泉 敦子	大阪医科大学大学院 医学部 眼科学
29	2013年 物質科学 受賞者	小原 睦代	名古屋工業大学大学院 工学研究科 未来材料創成工学専攻
30		高山 あかり	東北大学大学院 理学研究科 物理学専攻
31	2013年 生命科学 受賞者	野殿 英恵	慶應義塾大学大学院 理工学研究科 基礎理工学専攻
32		松嶋 藻乃	北海道大学大学院 医学研究科 神経生理学分野
33	2014年 物質科学 受賞者	中住 友香	東京工業大学 理工学研究科 化学専攻 木口研究室
34		八木 亜樹子	名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(化学系) 伊丹研究室
35	2014年 生命科学 受賞者	垣本 由布	京都大学大学院　医学研究科 法医学講座
36		田淵　紗和子	総合研究大学院大学 生命科学研究科　生理科学専攻　細胞生理研究部門
37	2015年 物質科学 受賞者	山本 久美子	東京大学大学院 薬学系研究科 薬科学専攻 金井求研究室
38		吉村 瑶子	京都大学大学院 理学研究科 化学専攻 ナノスピントロニクス研究室
39	2015年 生命科学 受賞者	林 真妃	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 植物生理学研究室
40		向井 理紗	徳島文理大学大学院工学研究科 ナノ物質工学専攻 大島研究室 卒　（授賞時）徳島文理大学 香川薬学部
41	2016年 物質科学 受賞者	北村 未歩	東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 藤岡研究室 卒　（授賞時）高エネルギー加速器研究機構　物質構造科学研究所
42		田仲 玲奈	東京大学大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻博士課程 製紙科学研究室 卒（授賞時）大阪大学大学院理学研究科 高分子科学専攻 高分子物理化学研究室
43	2016年 生命科学 受賞者	丹治 裕美	東京大学大学院薬学系研究科 蛋白構造生物学教室
44	2017年 物質科学 受賞者	秋山 みどり	東京大学大学院 工学系研究科 化学生命工学専攻　野崎研究室 卒 （授賞時）東京大学大学院 工学系研究科 化学生命工学専攻 フッ素および有機化学融合材料・生命科学講座　特任助教
45		小川 由希子	東北大学大学院 工学研究科　知能デバイス材料学専攻　小池研究室 卒　（日本学術振興会特別研究員-DC2） (授賞時）物質・材料研究機構　構造材料研究拠点　（日本学術振興会特別研究員 - SPD）
46	2017年 生命科学 受賞者	別所 奏子	名古屋大学 生命農学研究科 高次生体分子機能研究分野 卒　（授賞時）名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 博士研究員
47		渡邉 美佳	北海道大学大学院医学院　皮膚科学教室 皮膚科医
48	2018年 物質科学 受賞者	黒田 千愛	早稲田大学 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻
49		茂垣 里奈	東京大学大学院 工学系研究科 化学生命工学専攻
50	2018年 生命科学 受賞者	野元 美佳	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 植物分子シグナル学研究室 卒　（授賞時)名古屋大学　遺伝子実験施設　助教
51		森本 千恵	京都大学大学院　医学研究科　法医学講座
52	2019年 物質科学 受賞者	藤森 詩織	京都大学大学院 理学研究科 化学専攻 卒　（授賞時)産業技術総合研究所 触媒化学融合研究センター 特別研究員
53		渡部 花奈子	東北大学大学院 工学研究科　化学工学専攻 卒　（授賞時)東北大学大学院　工学研究科　化学工学専攻　助教
54	2019年 生命科学 受賞者	岡田 萌子	神戸大学大学院 農学研究科 生命機能科学専攻
55		岡畑 美咲	甲南大学 自然科学研究科 生体調節学
56	2020年 物質科学 受賞者	小野寺 桃子	東京大学大学院　工学系研究科　マテリアル工学専攻　町田研究室
57		藤代 有紗子	東京大学大学院　工学科研究科　物理工学専攻　十倉研究室
58	2020年 生命科学 受賞者	坂上 沙央里	東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻
59		高垣 菜式	甲南大学大学院 自然科学研究科 生命・機能科学専攻
60	2021年 物質科学 受賞者	大小田 結貴	東京大学大学院 理学系研究科・山本研究室 / フォトンサイエンス・リーディング大学院
61		門脇 万里子	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 研究員
62	2021年 生命科学 受賞者	大久保 祐里	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 細胞間シグナル研究グループ
63		永田 理奈	京都大学 生命科学研究科・高次生命科学専攻 井垣研究室 研究員
64	2022年 物質科学 受賞者	片山 春菜	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 理工学融合プログラム
65		木幡　愛	東京大学大学院 工学系研究科 化学生命工学専攻
66	2022年 生命科学 受賞者	佐々木 晴香	東北大学大学院 歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 歯科口腔麻酔学分野
67		野口 朝子	東京大学大学院 薬学系研究科 薬学専攻
68	2023年 物質科学 受賞者	瀬尾 珠恵	北海道大学 大学院総合化学院 総合化学専攻
69		富永 愛侑	東京大学 理学系研究科 天文学専攻
70	2023年 生命科学 受賞者	石川 萌	京都大学 農学研究科 応用生命科学専攻
71		堤 友美	大阪大学 歯学部 大学院歯学研究科・高次脳口腔機能学講座 （口腔解剖学第二教室）
72	2024年 物質科学 受賞者	佐藤 祐理子	大阪大学 大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻
73		森井 嘉穂	東京大学大学院 理学系研究科 天文学専攻
74	2024年 生命科学 受賞者	白石 千瑳	九州大学大学院 医学系学府 医学専攻
75		橋本 明香里	名古屋大学大学院 医学系研究科
76	2025年 物質科学 受賞者	木野 量子	東北大学 理学研究科 物理学専攻
77		髙田 咲良	慶應義塾大学 大学院 理工学研究科 基礎理工学専攻
78		仲里 佑利奈	東京大学 大学院 理学系研究科 物理学専攻
79	2025年 生命科学 受賞者	上野山 怜子	岩手大学大学院 連合農学研究科 生物資源科学専攻
80		沖田 ひかり	東京科学大学 総合研究院 生体材料工学研究所
81		吉本 愛梨	東京大学 大学院薬学系研究科 薬学専攻
82	2026年 物質科学 受賞者	梶原 美紀	中央大学 大学院理工学研究科 精密工学専攻
83		杉村 晴菜	大阪大学 大学院理学研究科 化学専攻
84	2026年 生命科学 受賞者	大薗 彩夏	岡山大学大学院 環境生命自然科学研究科 環境生命自然科学専攻
85		桐野 桜	東京科学大学 医学部大学院 医歯学総合研究科 消化器病態学分野

（参考）

ロレアルグループとユネスコ
世界規模で女性科学者を支援する社会貢献活動について

パリに本社を置くロレアルグループと国連専門機関のユネスコは、**「世界は科学を必要とし、科学は女性を必要としている」**という理念のもと、世界の女性科学者の業績を称えるとともに、同分野で活躍する女性たちの世界レベルでの更なる飛躍と地位向上を目的に、1998 年に共同で女性科学者を支援するプロジェクトを創設しました。同プロジェクトには次の 2 つのカテゴリーがあり、プロジェクト 1、2 はいずれも世界規模で展開しています。全プロジェクトを通じて、これまでに**世界 140 ヵ国以上から 5,000 名以上**の女性科学者が表彰されました。

1. **「ロレアルーユネスコ女性科学賞」(本社主催)： 日本人受賞者 7 名のほか、ノーベル受賞者も輩出**
   世界の科学の発展に寄与した女性科学者の業績を称えるものです。日本からは下記の 7 名が受賞（所属：授賞時）しています。

   - **2021 年　野崎 京子氏/東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻教授、日本化学会理事**：有機合成化学分野へ先駆的かつ創造的貢献と、産業革新にとっての研究成果の重要性
   - **2019 年　川合 眞紀氏/自然科学研究機構分子科学研究所長、東京大学名誉教授**：原子レベルで分子の操作・制御および、化学反応を引き起こす手法を見出し、新しい化学、物理学的現象の発見へとつながるナノテクノロジーの基盤の確立に貢献
   - **2014 年　稲葉カヨ氏/京都大学理事・副学長（男女共同参画・国際・広報担当）、京都大学男女共同参画推進センター長、京都大学大学院生命科学研究科教授**： 正常時ならびに疾患時における免疫システム内の樹状細胞の主要な役割の解明に貢献
   - **2013 年　黒田玲子氏/東京理科大学総合研究機構教授、東京大学名誉教授**：分子構造の左右性の違いが自然界に広く現れる左右性（キラリティー）現象に重要であることを明らかにし、アルツハイマーなどの神経変性疾患研究などの応用研究に貢献
   - **2009 年　小林昭子氏/日本大学文理学部化学科教授、東京大学名誉教授**：世界で初めて単一分子性金属の設計と合成に成功し、分子性伝導体の開発研究への多大な貢献
   - **2005 年　米沢富美子氏/慶応義塾大学名誉教授**：アモルファス半導体および液体金属の先駆的理論とコンピューター・シミュレーションによる解明に貢献
   - **2000 年　岡崎恒子氏/名古屋大学名誉教授**：分子生物学の草分け的存在で、DNA の不連続複製「岡崎フラグメント」の功績により表彰

   また、ロレアルーユネスコ女性科学賞の 2008 年の米国受賞者であるエリザベス・ブラックバーンと、欧州受賞者であるアダ・ヨナットが、それぞれ 2009 年ノーベル医学・生理学賞およびノーベル化学賞を受賞。2016 年の受賞者エマニュエル・シャルパンティエ教授とジェニファーA.ダウドナ教授の 2 名が、2000 年ノーベル化学賞を受賞、さらに 2022 年米国受賞者のカタリン・カリコ教授と 2011 年欧州受賞者であるアンヌ・リュイリエ教授がそれぞれ 2023 年にノーベル医学・生理学賞と物理学賞を受賞するという快挙を遂げています。

2. **「ロレアルーユネスコ国内賞」（各国ごとに主催）**：
   ロレアルグループでは、現在、日本の「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」をはじめ、各国において、同プロジェクトの理念を継承し、博士課程などの若手女性科学者が**研究・教育機関**で研究を継続できるよう奨励し、助成しています。

なぜ、ロレアルグループとユネスコとの共同創設賞なのでしょう？
ロレアルグループは、1909 年の創立当初から研究活動を最重要視し、化粧品科学を一つの独立した科学分野へと育て上げてきました。また、女性研究者を積極的に登用しており、約 4,000 名の研究者のうち、女性が占める割合は 60%に上ります。一方、ユネスコも女性の科学への参画を優先課題に掲げ、数多くのプログラムを推進しています。こうした共通の理念のもと、ロレアルーユネスコの共同プロジェクトは創設されました。

・「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」（主催：日本ロレアル）
https://www.loreal.com/ja-jp/japan/articles/commitments/fwis/
「ロレアルーユネスコ女性科学賞」の国内版として、日本ロレアルは 2005 年に日本ユネスコ国内委員会の協力のもと「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を創設。日本在住の若手女性科学者が研究活動を継続できるよう奨励することを目的とし、物質科学、生命科学の分野で、博士後期課程に在籍または、博士後期課程

に進学予定の女性科学者(40 歳未満)を対象としています。毎年、物質科学・生命科学から原則、各 2 名(計 4 名)に奨学金 100 万円を贈呈しています。2026 年度を含み 85 名の若手女性科学者が受賞しており、受賞後さらにキャリアを開花し、国内外で活躍しています。

・ロレアル財団と「ロレアルーユネスコ女性科学賞」について

https://www.forwomeninscience.com/（英語のみ）

ロレアル財団は、「女性のエンパワメント」をミッションに掲げ、彼女たちが自らの未来を創造し、社会に貢献できるよう、若い才能の発掘から、優れた研究者の功績を称えることまで、世代を超えた視点と専門的なプログラムを通じて、科学界における多様性の推進に貢献しています。ロレアル財団は国連ユネスコとのパートナーシップのもと、「世界は科学を必要とし、科学は女性を必要としている」という理念を礎に、女性科学者の支援プログラム「ロレアルーユネスコ女性科学賞」を 1998 年に立ち上げました。プログラム開始以来、**140** カ国以上から **5,000** 人以上の女性科学者を支援、顕彰しています。

また、未来の科学界を担う女性を奨励する目的で、若年層向けの「For Girls in Science」プログラムにも力を入れています。このプログラムでは、明日の科学的課題への意識を高め、卓越した女性のロールモデルを紹介することで、女子生徒たちが科学への関心を深めるきっかけを提供。次世代の女性科学者を支援し、彼女たちが科学分野で成功するための重要な「鍵」を提供しています。

さらに、ロレアル財団は、美は自己確立の過程で重要な位置を占め、包括的な社会の実現を後押しするという信念のもと、脆弱な立場におかれている女性を対象に、美のプロフェッショナル分野における無料の研修プログラムを展開しています。